

大崎短歌会

兼題「蠅・自由」

この頃は蠅をめつたに見ないけど

「茶の間に一匹」にらめっこする

テールに寛げるハエ追いつつも

蠅叩き持つ手の揺るぐなり

ハエ叩き持てばスルリと何処へか

瞬きせぬ間五月蠅ひ奴め

五月蠅初句の唐詩何と読む

うるさい奴だ五月の蠅は

孫の背に止まりし蠅をつぶしたる

拜む形の手の平の中

小蠅も降りしきる雨避けつ生く

温かき旨し匂ひたどりて

穂園芳江

栞山重子

井元かず子

実吉安仁

山下海征

馬場みさ

厳しさも苦しきことも多かりき

越し方思う梅雨降りしきる

照日神社はるか三重からのご神体

「称」お伊勢さん荒佐に鎮座す

前岳は雲一つなく澄みわたる

今日も好天元気をもらう

つる菜の葉重なるなかに子かまきり

ひそみて居りし雨まだ止まぬ

音語よみに唱歌をうたひ耳鳴りの

ふしぎに消えしこのうれしさを

本後淑子

川崎健一

坂元つる子

上南紀子

原田葉子

薩摩郷句

兼題「並るこ」

バーゲンに並るつ待ったが 売い切れつ

(唱) 歯痒いかもう 長ご待ったこて

満石うらら

安売いの 目玉め悪いか 並るちゃみつ

(唱) 駄目元じゃがち 婆の暇つぶし

上村牛歩

億当つち 暑きとい並るだ 籤売い場

(唱) 欲と二人で 暑さも忘れつ

上窪小絵

安売いが 何かも知たじ 列ち並るつ

(唱) 待つちよい間い 不用もんぬ買つ

諸木小春

並るじよつち 平然滑べ込だ 辣蕪面

(唱) 「並らんですよ」ち 小め声で言つ

藤元鬼瓦

泥酔坊が 並るつ待つちよい 終電車

(唱) よろよろしながい 並るで感心

北村虎王

検尿で 並るだトイレで 間け合わせ

(唱) 気張つちよつたが ああ待つきらん

二見愚楽満

3L 小めとも並るだ ジーンズ屋

(唱) 大てサイズ言が 小めとも沢山

長重リリー

何の列 じゃいか分からじ 並るつ俺

(唱) 忙しも無こち 並るつみろかい

遠矢耐多

釣れた魚 見れち並らべつ 爺は自慢

(唱) 沢山釣れつ 女房も喜くつ

西ノ園ひらり

ほろけん

326 バレーボール



ヨシ子さんは、大のバレー好き

ひろ拾え!

じやが
じやが

なん!

もー
ないしい
ちよつとよ!

テレビを
見いよっ
けんお
おもしろ
どい

よーし!
ブロック!
そいじやが